



助かる人に、助けられる人に ～9.1 防災の日～



本日、**9月1日は「防災の日」**です。では、この日がなぜ、「防災の日」に制定されたのでしょうか？少し説明をしたいと思います。

日本は、これまでも数々の大災害に見舞われてきましたが、歴史上の大きな地震災害のひとつとして記憶されているのが、**1923年9月1日に起きた関東大震災**です。この震災を忘れず、災害に対する備えをしっかりと行おうと、1960年、国は9月1日を「防災の日」として制定しました。また9月1日は、立春から数えて210日目の日で「二百二十日(にひゃくはつか)」と呼ばれる暦の日。この時期は台風が多く、災害が発生しやすいことも、防災の日に設定された理由のひとつといわれています。

「防災の日」には、各地で避難訓練を行っています。**大阪では南海トラフ巨大地震の発生を想定し、880万人訓練**が平成24年から開始されました。この日は大阪府域にいる人たちの携帯電話などに、「大津波警報の発表」を知らせる訓練用の「エリアメール/緊急速報メール」が配信されます。これは府民の皆さんには、この訓練用メールの受信をきっかけとして、災害時にどのような情報が届くのかを知ってもらうとともにメールを受信したときにどう行動しなければならないのかを考えてもらい、災害時の行動を実践してほしいという目的があります。

だからこの日は「避難訓練を行ったりたり、防災グッズをそろえて、地震や台風などが起きたときに備える大切な日」であることを知っておいてください。

では具体的にどんなことをすればいいのでしょうか。

①防災マップで地域の避難場所を確認する

国土交通省や各市町村で防災マップやハザードマップなどが作られています。それらで、自分が住んでいる地域でどんな災害が予測されるかを把握し、自宅から近い避難場所がどこにあるのかを確認しましょう。また、家族で自宅からその避難場所まで実際に歩いてみて、どんな経路で行くことができるかを確認しておくことで安心です。

②防災グッズを確認する

携帯ラジオや非常食、救急品などを詰めた防災リュック(非常リュック)は、いざというときにそのまま手にして非難することができます。そのためにも、リュックの中に入っているものが十分か、非常食が古くなっていないか、定期的に確認することも大切です。「防災の日」には、防災リュックの中身も確認するようにしましょう。



③家具の転倒防止対策を行う

これまでに起きた地震では、倒れてきた家具の下敷きになり亡くなったりケガをした人がとても多くいます。本棚、テレビ台、食器棚など、家具が倒れてくることを想定して、転倒防止グッズでしっかり固定しましょう。特に、家族が一番過ごすリビングや子ども部屋は、改めてチェックするようにしましょう。

④食料や飲料の備蓄を確認する

万が一の場合に備えて、非常食や飲料水を1週間分ほど準備しておきたいもの。これらの備蓄品は定期的に新しいものを購入して、古いものは食べて処分し、新しいものを常備できるようにしましょう。

⑤家族同士の連絡手段を確認する

災害時は電話がつながりにくくなることが想定されますが、携帯電話や固定電話から利用できる、NTT災害伝言ダイヤル「171」などで安否確認を行うこともできます。また、SNSで連絡を取り合うこともあるかもしれません。家族同士で、緊急時にどうやって連絡をとるか、事前に決めておきましょう。

学校でも定期的に避難訓練を行っていますが、いつどんな風に起こるかわからない災害に対してできる準備をしておきましょう。そして、どうか君たち中学生は、**自分が助かるだけでなく、助けられる人**になってほしいと願っています。